



瓊浦高等学校
学校通信
第 94 号

令和2年6月30日発行
電話 095-826-1261

瓊浦の窓 「瓊浦高校での出会い」

前理事長 栗山 幸生

2020の東京オリンピックは、新型コロナウイルスの世界的流行によって1年間延期されました。このコロナ騒動が一日も早く終息して来年は必ず東京での2回目のオリンピックが開催されることを信じています。私は今でも1964年に開催された1回目の東京大会(第18回オリンピック)で感じた高揚感を、半世紀以上も昔のことなのに忘れられません。この1964年前後は私の青春期であったことから、鮮明な記憶として今日まで脳裏に刻まれているのでしょう。

もう一つの鮮明な残像は瓊浦高等学校との出会いです。お世話になっている先輩から連絡があり、「長崎市内に私立のけいほ高校という学校があるから、学校に行って佐藤校長先生の面接を受けてきてくれないか」と言われメモを渡されました。(メモの瓊浦の文字はひらがなだったような記憶があります)私自身、長崎の地理は不案内で、やっとの思いで桜馬場校舎に辿り着き、初めて「瓊浦」の文字を目にしました。

応接室での面接の様子は、校長先生は私がこの学校に勤務するために来校したと信じておられたようで、丁寧に学校のことを説明されました。先生は福島県のご出身で、立て板に水ではなく、孫にでも言い聞かせるような話しぶりでした。しかし、この時の私は既に他県の学校に就職が内定していましたので、校長先生のお話は上の空でしかなく、言い訳をしてお断りすることばかり考えていました。

一度は逃げ帰った私ですが、10日ほどして桜馬場に舞い戻りました。その第1の理由は私の祖父と同年代の古武士のような風格の老校長先生の信頼を裏切ることができなかったことと、しばらくの間でも瓊浦にお世話になって校長先生が説明されていた私立学校の長所を体験してから、公立校に転出して、との得意の思いつきです。



当時の瓊浦高校は担任も生徒もエスカレーターに乗っているようなもので、3年間同じ組み合わせで進級していましたし、このエスカレーター方式は校務分掌や学年団の編成も必要最小限しか変更しないことになっていたようです。私の場合、初年度の担当が1年B組60名の男子クラスで、3年間で3名中途退学しましたが、57名は卒業までエスカレーターの同乗者でした。この出会いの57名のうち既に亡くなってしまった者が10余名はいるようだし、元気で市内にいる人たちとは時々温泉巡りや小旅行を楽しんでいます。彼らも70歳を超した老人となり、先生と生徒の区別はありません。この50余年間には数え切れない出会いと思い出があり、お世話したことより皆さんにお世話になったことが遙かに多かった歳月で、特にクラブ活動の成果においては瓊浦高校でしか出会うことのできないことが多々ありました。ハンドボール部・バドミントン部の日本一、野球部の甲子園出場では野球部長として甲子園のベンチに座らせてもらったこと、他に文化部を含めて全国レベルの好成績は枚挙にいとまがなく、身に余る出会いを数多くさせていただき言葉では言い尽くせないほど感謝しています。

これから私がしなければならないことは、5年後の学園創立100周年の成果を見届けて、学祖中村安太郎校長先生とご指導下さった先輩諸兄姉へのご報告をと考えています。これまでお世話になった57年間に、そして素晴らしい沢山の出会いを与えていただいた瓊浦に幾重にもお礼申し上げます。頑張れ瓊浦・有り難う瓊浦。

新理事長就任式

6月8日(月)、栗山前理事長の後を継ぎ、新理事長に就任された山口廣志先生の就任式が行われました。式の中で、山口新理事長より挨拶がありました。その中で、「試合での勝利や、試験で結果を出すなどの一つ一つの積み重ねが、大きな夢の実現に繋がる」という言葉があり、生徒達も意気に感じていた様子でした。新理事長の下、生徒の夢の実現のために、瓊浦ファミリーが一丸となって邁進していきたいと思えます。



保健・衛生について

新理事長就任式が、新型コロナウイルスの影響による臨時休業以降では初めての全校集会でした。各集会では間隔を空け、マスク着用を徹底させるなど予防措置をとっておりますが、意識が薄れてきた生徒が散見されるのが現状です。東京では1日の感染者数が50を超えるなど、まだまだ予断を許さない状況です。今後の各行事も縮小の上実施される見込みです。今一度、一人ひとりの意識改善のために、各ご家庭のご協力をお願い致します。

各学年主任より

第74回生275名の入学許可がおりてから早3ヶ月。振り返ると、入学前後から新型コロナウイルス感染症拡大という難局に見舞われ、戸惑いを隠せないまま臨時休業を迎えました。多くの学校行事が中止や延期となり、1年生においても、入学直後に行われる宿泊研修で学級・学年の親睦を深める機会を奪われたことが非常に残念でなりません。それでも教員の心配とはよそに、規制のある生活の中でも自然と打ち解けていく生徒たちの逞しさに救われる毎日です。6月19日以降は県を跨いだ移動も可能となり、徐々に日常の学校生活を取り戻しつつあります。終業式前には学年ごとではありますが競技大会が予定されています。生徒たちの元気な声が今にも聞こえてきそうで楽しみです。

1学年 中別府

「点と点を結ぶ。」アップル社の設立者の一人、伝説的な実業家スティーブ・ジョブズがスピーチで残した言葉の一節です。過去という点、現在という点、そして未来という点。彼は時間の流れの不思議な繋がりと大切さを点と点の繋がりとして表現し、自身の人生で「最悪だ」と思ったことが、後の大成功に繋がった経験があることを語りかけました。

今の状態から未来を確実に予測できる人はいません。しかし、時間の使い方、出来事の受け止め方の蓄積が将来をつくります。今、世界中が未知のウイルスとの戦いを強いられています。私達の意志の強さ、思いやりや協調性が今ほど問われる時はないかもしれません。制限続きで不便な現状ですが、今だからこそ考えなければいけないこと、出来ることがあることを信じ、豊かな未来をつくりだす工夫がそれぞれに求められているのだと思います。

2学年 阿部

第72回生は早いもので入学して2年3ヶ月が経過しようとしています。コロナ禍の中、高総体中止や進路に関する日程変更など先行き不透明な状況ではありますが、3年生の生徒諸君は前向きに学校生活を送っています。現在は進路目標の実現のため、熱心に学習に取り組む人が増えています。特に2年生の3月より延期されていた進路模試では各クラスとも工夫して試験対策学習に取り組んだ結果、学年全体で過去最高の得点率を記録しました。昨年の第1回模試で8位だったクラスでは、繰り返し問題集を解いて全員で最高得点を目指して学習し、第6回の模試で見事1位となりました。また、情報ビジネス科では検定試験合格のために遅い時間まで学校で先生方とともに勉強している生徒が増えました。1年生、2年生の生徒諸君には日々の学校生活の中で高い目標を持って学習活動に取り組み、数多くの資格検定試験にチャレンジしてもらいたいと思っています。

3学年 加来

創立記念集会

6月22日(月)の朝、創立記念集会が行われました。本校は今年で95周年を迎えます。集会では前理事長の栗山幸生先生より、歴代校長のご紹介を中心として、瓊浦高校の沿革についての講話がありました。生徒は聞き入って、これまでの瓊浦の長い歩みに思いを馳せている様子でした。

講話の後には、5月末でご退職になった栗山先生に、山口新理事長から感謝状の贈呈。それから、生徒代表からの花束贈呈も行われました。

本校の歴史ある95年間の歩み。栗山先生はその半数を優に超える、57年と2ヶ月もの時間を、瓊浦発展のために尽くされてきました。

その多大なるご偉功に、瓊浦ファミリー一同、改めて感謝申し上げたいと思います。

100周年に向かって、まだまだ瓊浦は挑戦し続けます。保護者の皆様には、なおいっそうのご理解とご協力をお願い致します。



《 主な行事・7月 》

1日(水)	求人開始		
3日(金)	機械製図検定(二次)		
5日(日)	全商ビジネス文書実務検定		
6日(月)	三者面談(3年)(~17日)		
7日(火)	メディア安全教育		
	内科検診(~8日)		
10日(金)	パソコン利用技術検定		
	漢字検定		
	イングリッシュデイ	21日(火)	競技大会(2年)
14日(火)	生徒総会	22日(水)	競技大会(3年)
	内科検診		終業式
15日(水)	第7回進路模試(3年)	23日(木)	海の日
17日(金)	実用英語技能検定(一次)	24日(金)	スポーツの日
20日(月)	競技大会(1年)	27日(月)	追試(~28日)
			面談・補習開始(~8/7)

